

■参考資料

1. 景観・歴史的風致に関するアンケート調査

市では、本計画の作成に取り組む前段で、肱南・肱北地区の住民を対象として景観及び歴史的風致に関するアンケートを実施し、計画作りの基礎資料として活用した。調査概要、調査結果は次のとおりである。

(1) 調査概要

調査対象：住民基本台帳より年齢 19 歳以上、75 歳以下で無作為抽出による

調査方法：郵便配布、郵便回収

調査期間：平成 21 年 6 月 24 日から平成 21 年 7 月 10 日まで

配布・回収：配布数 300 件・回収 114 件（回収率：38.0%）

調査項目：① 居住地域の景観について

② 今後の大洲市の景観への取り組みについて

③ 大洲市の歴史的建造物や伝統行事・祭礼について

④ 大洲城の公園整備について

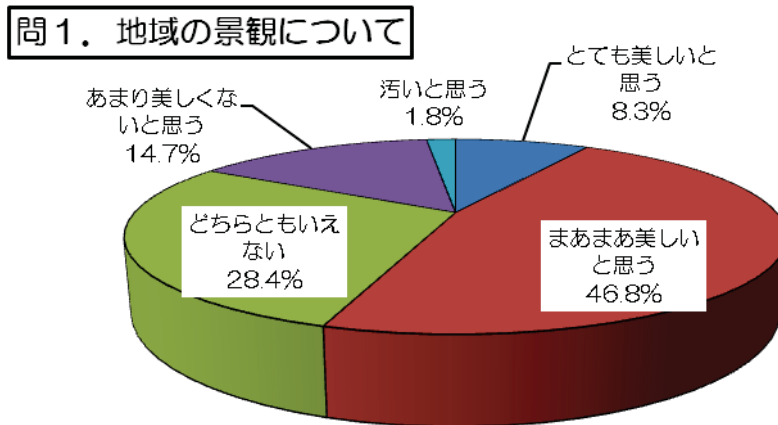
⑤ 回答者の属性

(2) 調査結果

① 居住地域の景観について

問1 現在お住まいの地域の景観は、美しいと感じますか？

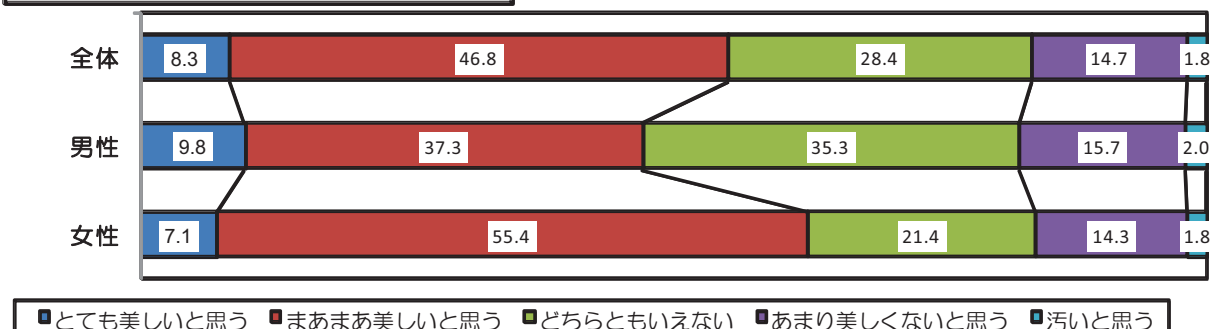
地域の景観については回答者の約 46.8%は「まあまあ美しいと思う」と感じており、「とても美しいと思う」8.3%を合わせると、全体の約 55%以上の方は地域の景観を美しいと感じている。「あまり美しくないと思う」、「汚いと思う」は全体の約 17%に留まっている。



(男女別集計)

地域の景観についての回答は、女性の方が「とても美しいと思う」「まあまあ美しいと思う」を合わせると 62.5%で、男性の 47.1%と比べても地域の景観を美しいと思っている人が多いことが分かる。

問1. 地域の景観について (男女別)

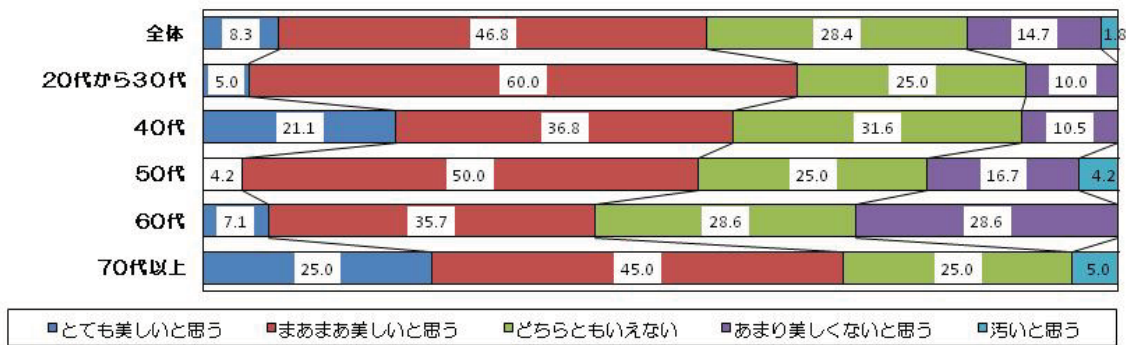


(年齢別集計)

地域の景観を「とても美しい」「まあまあ美しいと思う」と感じている人の合計は、60代を除く全ての年代で約5割を超えており、なかでも70代では7割を超えている。

また、「あまり美しくないと思う」「汚いとおもう」は50代・60代を除くと概ね1割前後になっている。

問1. 地域の景観について(年齢別)

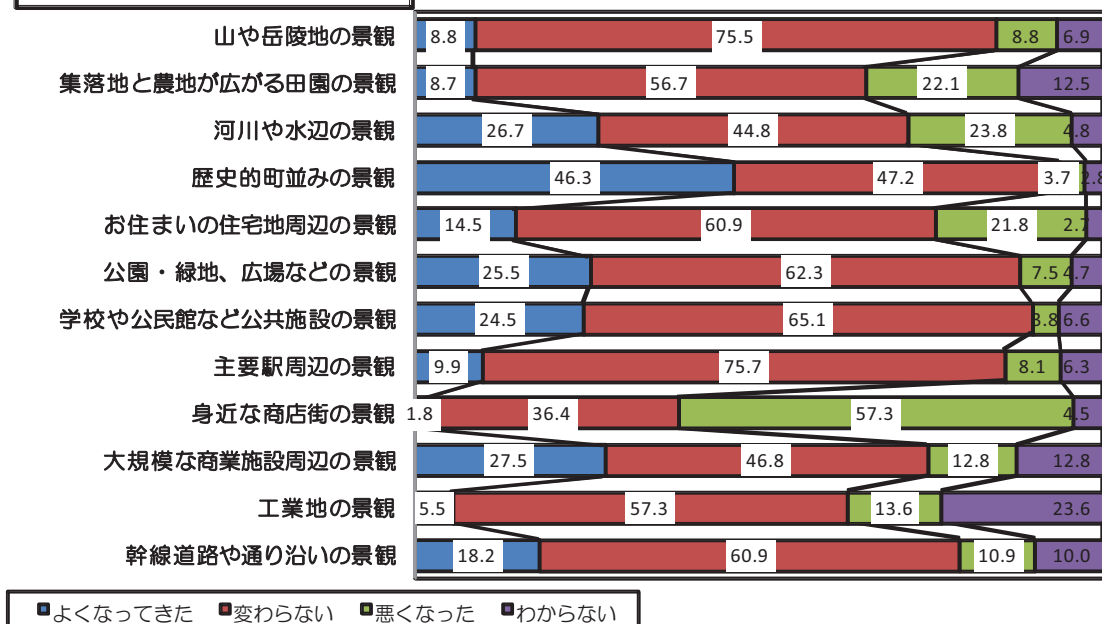


問2 近年、あなたのお住まいの地域や市の景観は良くなっていますか？

近年の地域や市の景観の変化については、“変わらない”が40%以上を占める評価項目がほとんどだが、「身近な商店街の景観」については、“悪くなった”が57.3%を占めている。また、「集落地と農地の広がる田園の景観」「河川や水辺の景観」「お住まいの住宅地周辺の景観」は20%以上の人々が“悪くなった”と感じている。

一方、「歴史的町並みの景観」は46.3%の人が“良くなった”と感じており、「河川や水辺の景観」「公園・緑地、広場などの景観」「学校や公民館などの公共施設の景観」「大規模な商業施設の景観」についても20%以上の人々が良くなったと感じている。

問2. 景観の変化について

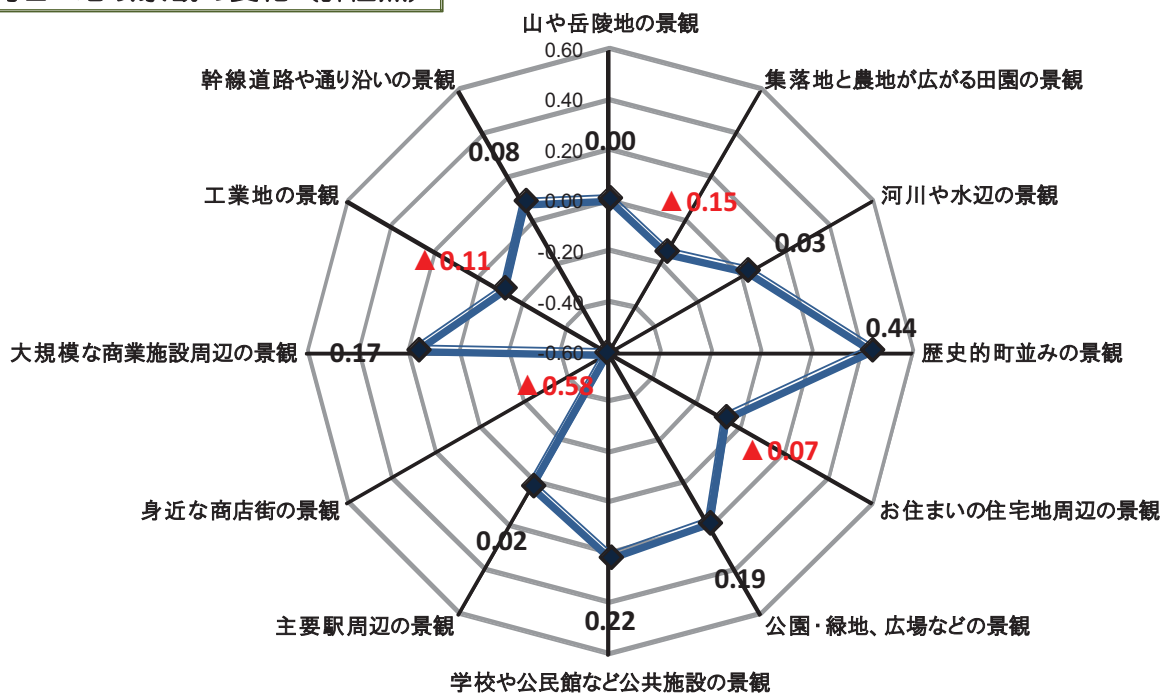


各評価項目について、右に掲げるようにポイントを与え、“わからない”を除く回答数で除したものを評価点としてみると「歴史的町並みの景観」(0.44)・「学校や公民館など公共施設の景観」(0.22)・「公園・緑地、広場などの景観」(0.19)・「大規模な商業施設の景観」(0.17)・「幹線道路や通り沿いの景観」(0.08)・「河川

《評価ポイント》	
よくなってきた	: +1点
変わらない	: 0点
悪くなった	: -1点

や水辺の景観(0.03)・「主要駅周辺の景観(0.02)」については、“良くなってきた”と感じている人が、“悪くなった”と感じている人を上回っている。一方、「身近な商店街の景観」(▲0.58)・「集落地と農地の広がる田園の景観」(▲0.15)・「工業地の景観」(▲0.11)・「お住まいの住宅地周辺の景観」(▲0.07)については、“悪くなった”と感じている人の方が上回っている。このことから、都市的な景観、新しく作られる景観、あるいは歴史的町並みについては良くなってきたが、身近な生活環境(商店街・工業地・住宅地)や田園景観については悪くなったと感じられていることが分かる。

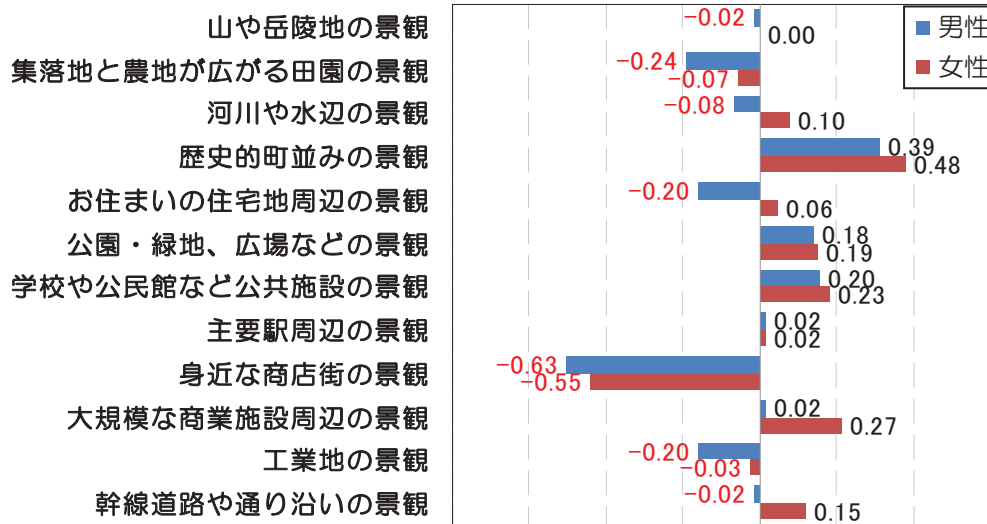
問2 地域景観の変化(評価点)



(男女別集計)

各評価項目の評価点は、男女ともほぼ同様の傾向にあるが、「河川や水辺の景観」「お住まいの住宅地周辺の景観」の2項目については、女性は“よくなってきた”と感じているのに対し、男性は“悪くなった”と感じている。全体的に、男性に比べて女性の方が“よくなってきた”と感じている人が多く、“悪くなった”と感じている人が少ない傾向にある。

問2. 景観の変化（男女別）

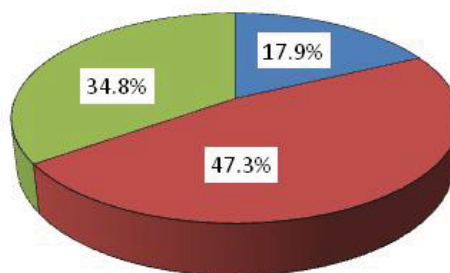


② 今後の大洲市の景観への取り組みについて

問3. これからの大洲市のより良い景観づくりを進めていくために、大洲市景観条例が制定されて、大洲市景観計画が策定を完了し、本年7月1日から一部地域で建築行為等に規制がかかることになっているのをご存知ですか？

大洲市景観条例が制定され、本年7月1日から一部地域で建築行為などに規制がかかることについて、「条例が制定されたことは知っているが景観計画の内容についてはよく知らない」が47.3%で約半数を占めており「景観計画の内容を含めよく知っている」34.8%を加えると、82.1%になる。全体の8割を超える方が景観条例について認知していることが分かる。

問3 景観条例制定について

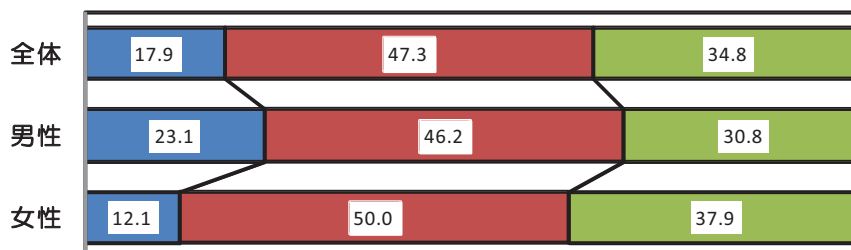


■景観計画の内容も含めよく知っている
 ■条例等が制定されたことは知っているが、景観計画の内容については知らない。
 ■全然知らなかった

(男女別集計)

景観計画制定について、「景観計画の内容を含めよく知っている」と回答している人は、女性より男性の方が約5%多い。逆に、「条例等が制定されたことは知っているが内容については知らない」は女性の方が多くなっている。

問3 景観条例制定について(男女別)

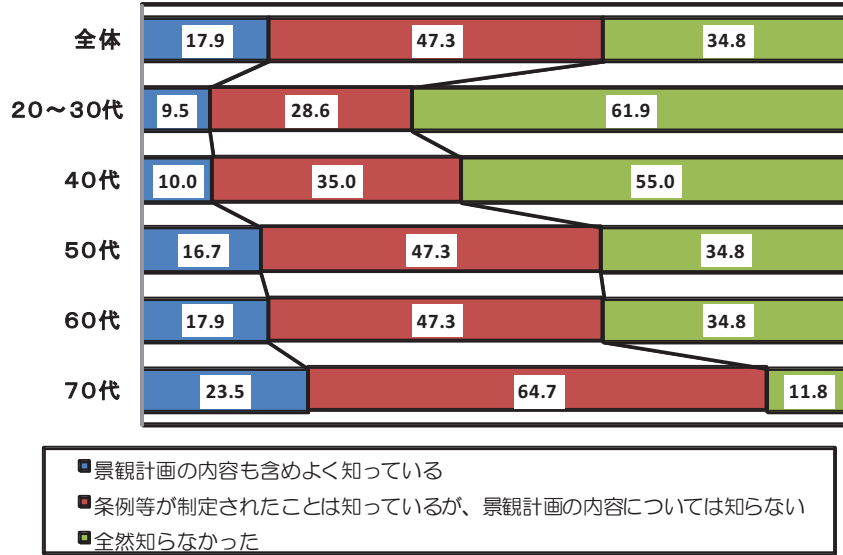


■景観計画の内容も含めよく知っている
 ■条例等が制定されたことは知っているが、景観計画の内容については知らない
 ■全然知らなかった

(年齢別集計)

景観条例制定については、「景観計画の内容も含めよく知っている」「条例などが制定されたことは知っているが景観計画の内容については知らない」の2項目の合計をみると20～30代で38.1%、40代で45.0%、50代で64.0%、60代で65.2%、70代では88.2%となり、年代が上がるごとにその割合が大きくなっている。

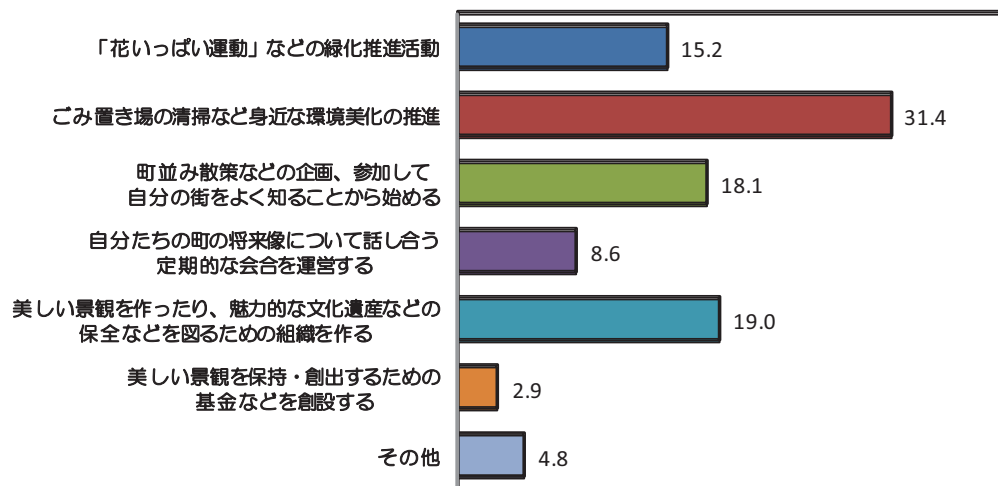
問3 景観条例制定について（年齢別）



問4 今後、住民が主体的に取り込むべきだとお考えの内容があれば1つだけ選んで○をつけてください。

住民が主体的に取り組むべき内容としては、「ごみ置き場の清掃など身近な環境美化の推進」を挙げる人が最も多く、全体の31.4%となっている。これに続き「美しい風景を作ったり、魅力的な文化遺産などの保全を図るための組織を作る」(19.0%)・「町並み散策などの企画、参加して自分のまちをよく知ることから始める」(18.1%)・「『花いっぱい運動』などの緑化推進運動」(15.2%)となっている。

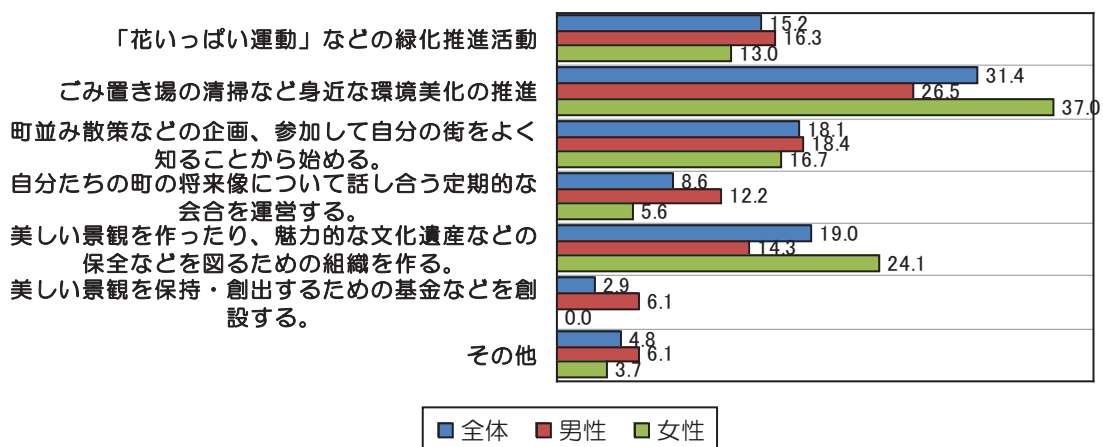
問4. 住民が主体的に取り組むべき内容



(男女別集計)

住民が主体的に取り組むべき内容に対する回答を男女別に見ると、ほぼ同様の傾向にあり男女で大きな差は見られない。男女ともに1位が「ごみ置き場の清掃など、身近な環境美化の推進」となっている。

問4 住民が主体的に取り組むべき内容 (男女別)

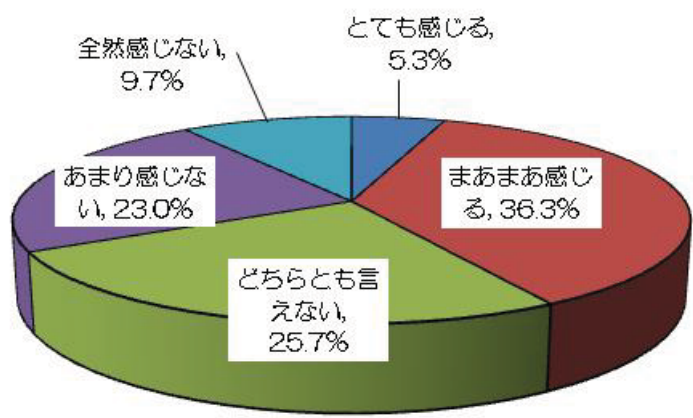


③ 大洲市の歴史的建造物や伝統行事・祭礼について

問5. 現在お住まいの地域に対して歴史や伝統を感じますか？1つだけ選んで○をつけてください。

問5については、回答者の36.3%は「まあまあ感じる」と答えており、「とても感じる」の5.3%を合わせると全体の4割を超える人が居住地に対して歴史や伝統を感じていることが分かる。一方、「あまり感じない」「全然感じない」は合計で全体の約3割を占めている。

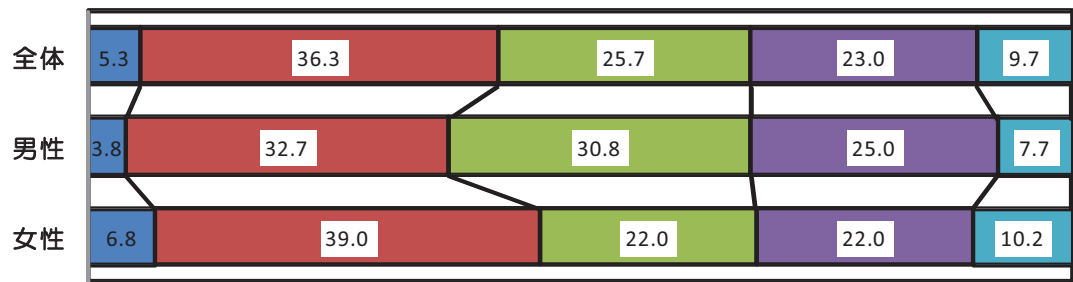
問5.居住地に対して歴史・伝統を感じるか？



(男女別集計)

問5の男女別集計では、男性よりも女性の方が「とても感じる」、「まあまあ感じる」と回答した人が多い。「あまり感じない」「全然感じない」と回答した人は、男女とも同程度の割合になっている。

問5. 居住地に対して歴史・伝統を感じるか？(男女別)

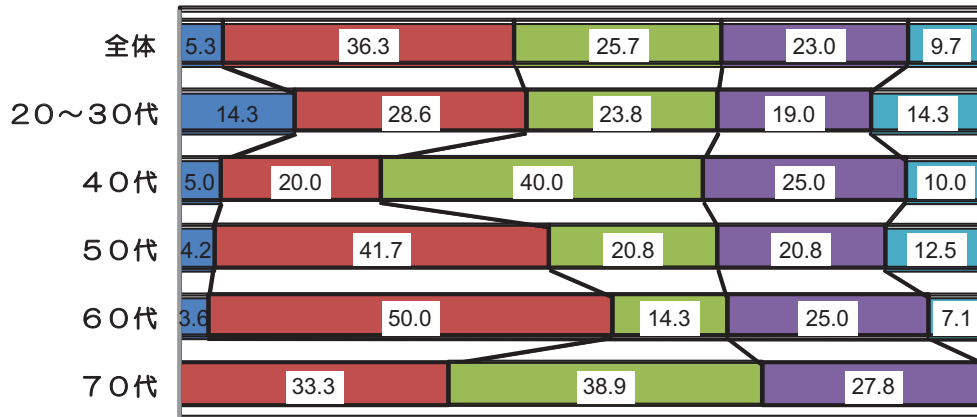


■とても感じる ■まあまあ感じる ■どちらとも言えない ■あまり感じない ■全然かんじない

(年齢別集計)

問5の年齢別集計では、「とても感じる」、「まあまあ感じる」と回答した人の合計は、40代と70代を除いて4割を超えている。40代は25.0%と比較的低い数字になっている。「あまり感じない」「全然感じない」と回答した人の合計は、どの年代もおおよそ3割程度になっている。

問5. 居住地に対し歴史・伝統を感じるか？(年齢別)



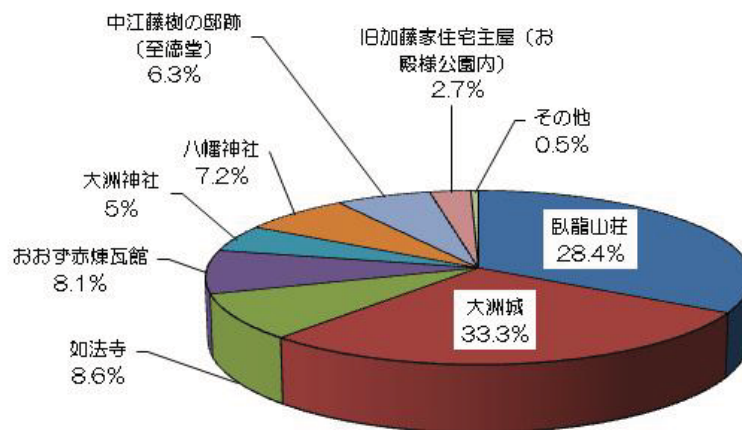
■とても感じる ■まあまあ感じる ■どちらとも言えない ■あまり感じない ■全然かんじない

問6. あなたが後世に残したいと思う建造物、伝統行事をそれぞれ各項目から2つずつ選んで○をつけてください。

【建造物】

後世に残したい建造物としては、1位が「大洲城」(33.3%)、2位に臥龍山荘(28.4%)が挙げられ、その合計は全体の6割を超えている。その他の項目は1割に満たない割合になっている。

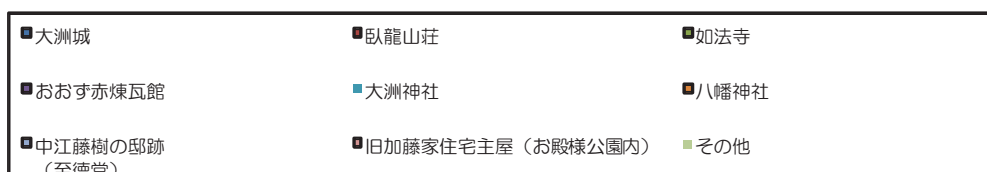
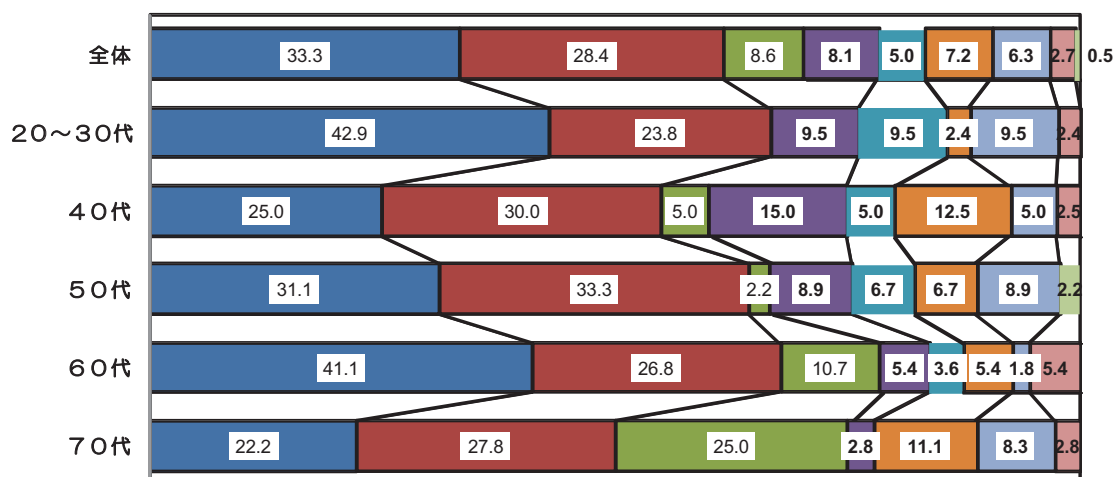
問6 後世に残したい建造物



(年代別集計)

後世に残したい建造物の年代別集計では、「大洲城」、「臥龍山荘」を挙げた人の合計は20代~30代、50代、60代で6割を超えている。70代では「如法寺」を挙げる人の割合が25.0%で他の年代よりも高くなっている。

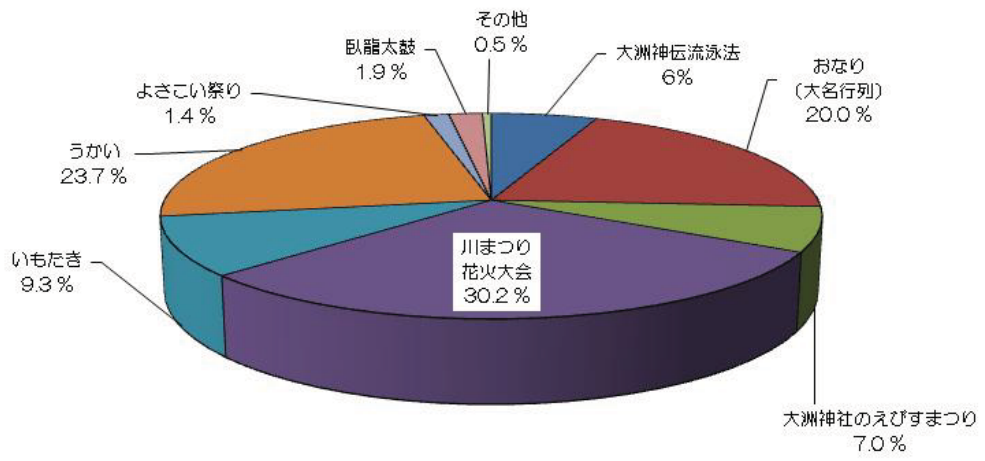
問6. 後世に残したい建造物(年代別)



【伝統行事】

後世に残したい伝統行事としては、1位が「川まつり花火大会」(30.2%)、2位が「うかい」(23.7%)、3位が「おなり(大名行列)」(20.0%)となり、合計で7割を超す人が挙げている。その他の伝統行事を挙げた人は、1割に満たない割合になっている。

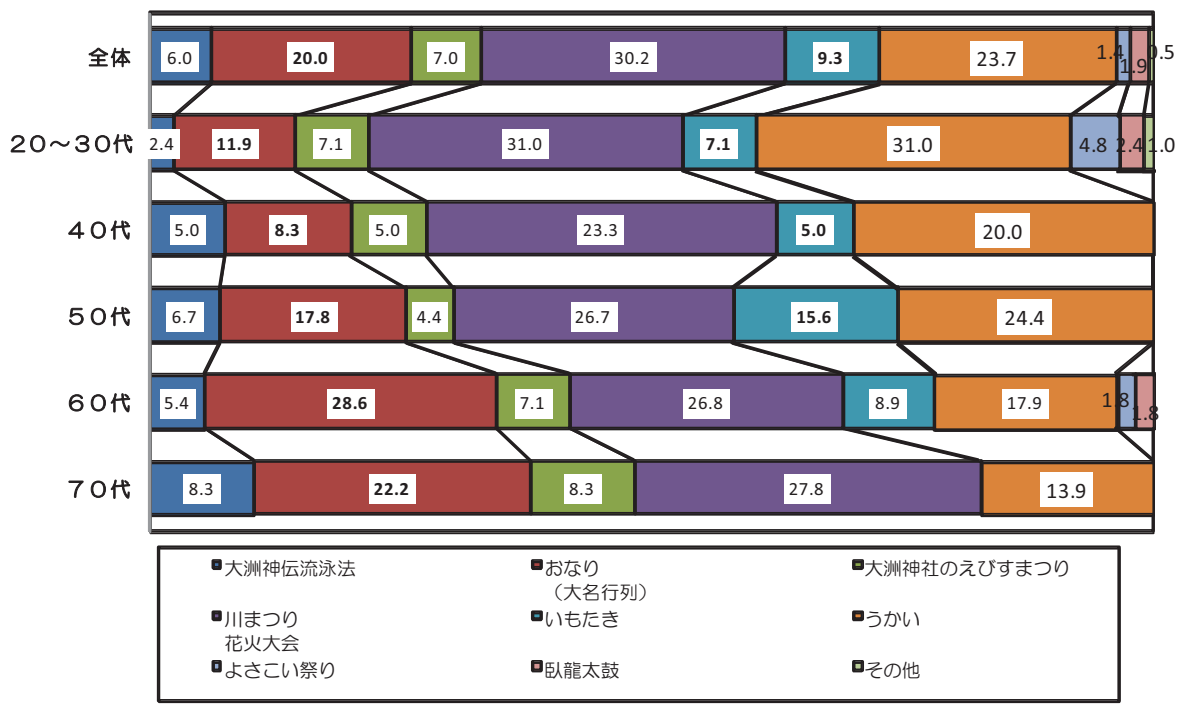
問6 後世に残したい伝統行事



(年代別集計)

後世に残したい伝統行事の年代別集計では、「川まつり花火大会」「うかい」「おなり(大名行列)」の3項目が、各年代で上位3位までに挙げられている。「おなり(大名行列)」を挙げた人は、年代が上がるにつれて、占める割合も高くなる傾向がある。逆に「うかい」を挙げた人は、年代が上がるにつれて占める割合が低くなる傾向にある。

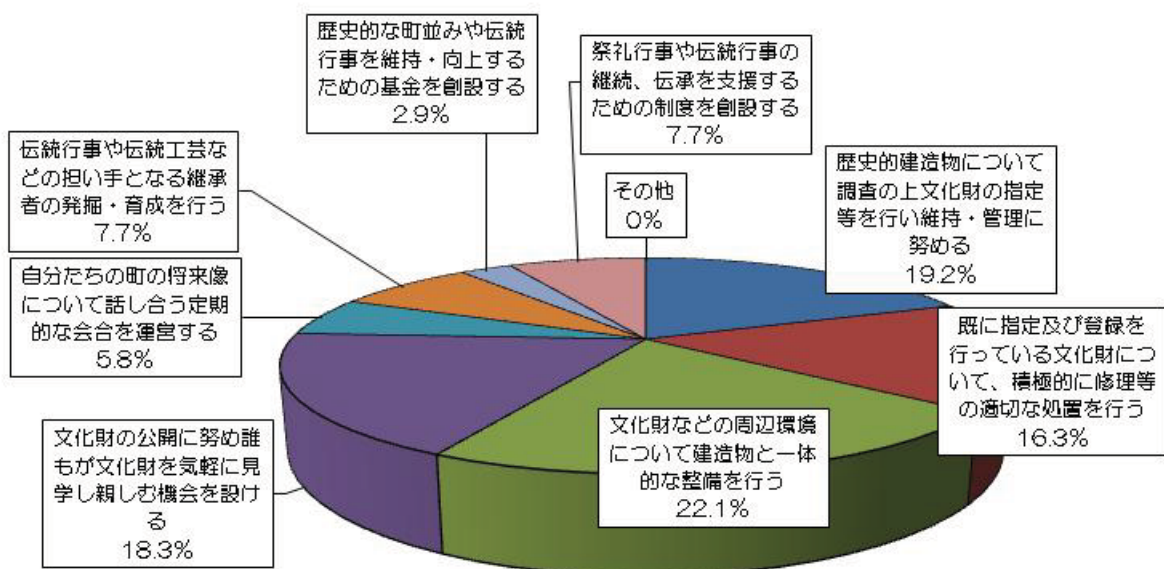
問6. 後世に残したい伝統行事(年代別)



問7 あなたが問6で選んだ建造物や伝統行事などを保存し、地域をより良いものにするにはどういう施策が必要だと思いますか？1つだけ選んで○をつけてください。

問7に対しては、「文化財等の周辺環境について、建造物と一体的な整備を行う」(22.1%)が1位に挙げられ、続いて2位「歴史的建造物について、調査上、文化財の指定を行い維持・管理に努める。」(19.2%)、3位「文化財の公開に努め、誰もが文化財を気軽に見学し親しむ機会を設ける。」(18.3%)、4位「既に指定及び登録を行っている文化財について、積極的に修理等の適切な処置を行う」(16.3%)となっており、この4項目を挙げる方が全体の約75%に達している。その他の項目については、1割に満たない割合になっている。

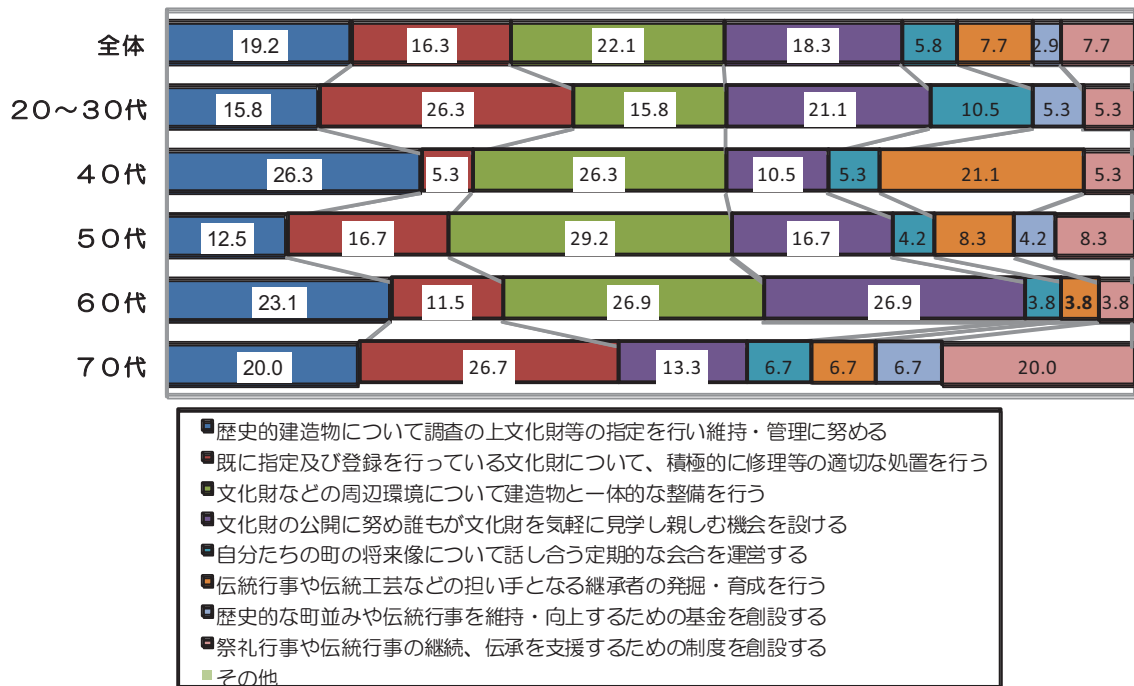
問7. 地域に必要な施策



(年代別集計)

問7の年代別集計では、「伝統行事や伝統工芸などの担い手となる継承者の発掘・育成を行う」の項目を挙げる40代の割合が他の年代に比べて高く、60代では「文化財の公開に努め誰もが文化財を気軽に見学し親しむ機会を設ける」の割合が高くなっている。70代では、全体で最も多く挙げられた「文化財などの周辺環境について建造物と一体的な整備を行う」の項目を挙げた人は0人になっている。

問7. 地域に必要な施策（年代別）

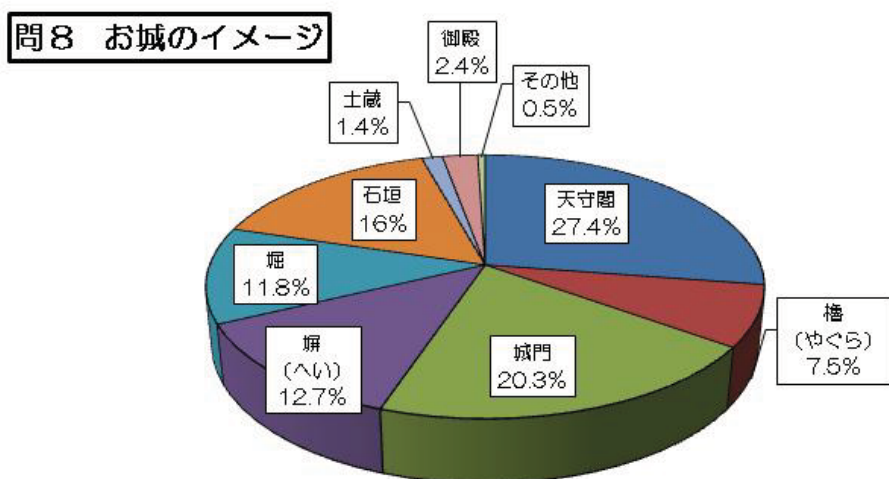


④ 大洲城の公園整備について

問 8 お城でイメージするもの、今後の大洲城の公園整備で必要と思われるものをそれぞれ各項目から 2 つずつ選んで○をつけて下さい。

【お城のイメージ】

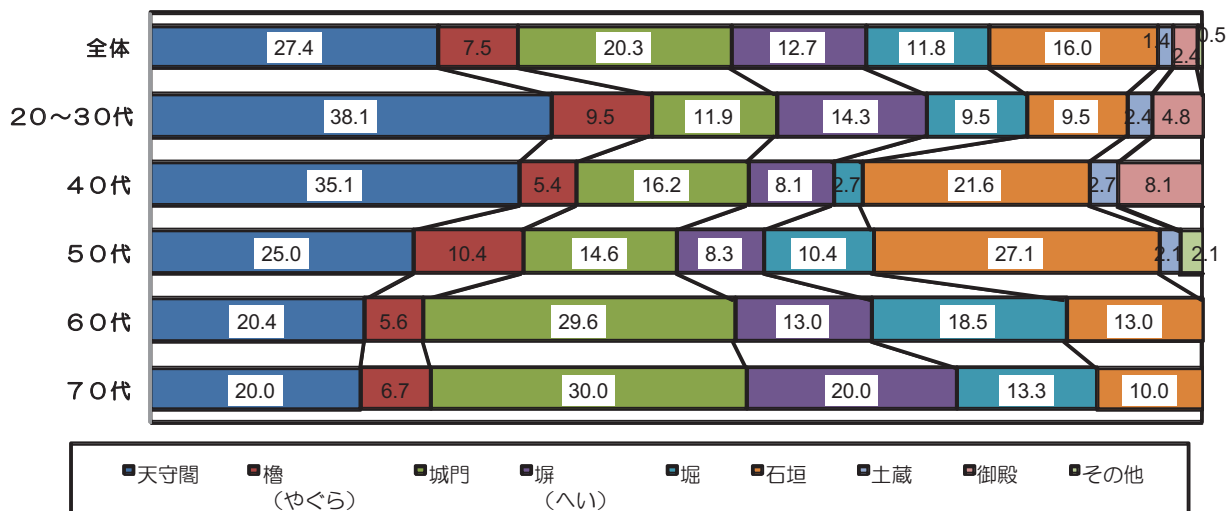
お城のイメージとしては、1 位「天守閣」(27.4%)、2 位「城門」(20.3%) がそれぞれ 2 割を超えており、「石垣」(16.0%)、「塀」(12.7%)、「堀」(11.8%) が続き、その他の項目は 1 割に満たない割合になっている。



(年代別集計)

お城のイメージの年代別集計では、20～30 代、40 代の若い世代に、「天守閣」を挙げる人の割合が他の世代に比べて高く、60 代、70 代の世代の方は、「城門」を挙げる人の割合が高くなっている。また、40 代、50 代においては、「石垣」を挙げる人の割合が高くなっている。

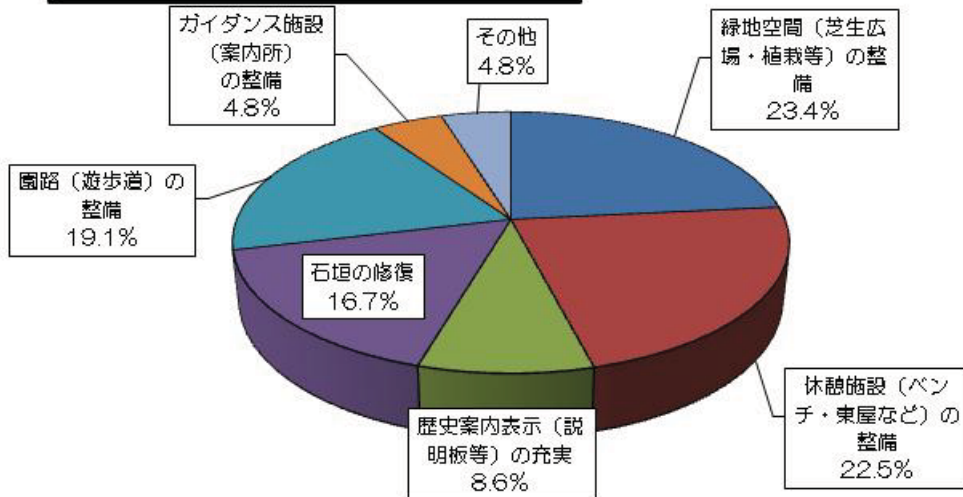
問 8. お城のイメージ (年代別)



【今後必要な大洲城の公園整備】

今後必要な大洲城の公園整備としては、1位「緑地空間（芝生広場・植栽等の整備）」（23.4%）、2位「休憩施設（ベンチ、東屋などの整備）」（22.5%）、3位「園路（遊歩道の整備）」（19.1%）、4位「石垣の修復」（16.7%）が挙げられており、4項目を合計すると全体の8割以上を占めている。上位の3項目については、市民が直接利用できる施設の整備となっている。

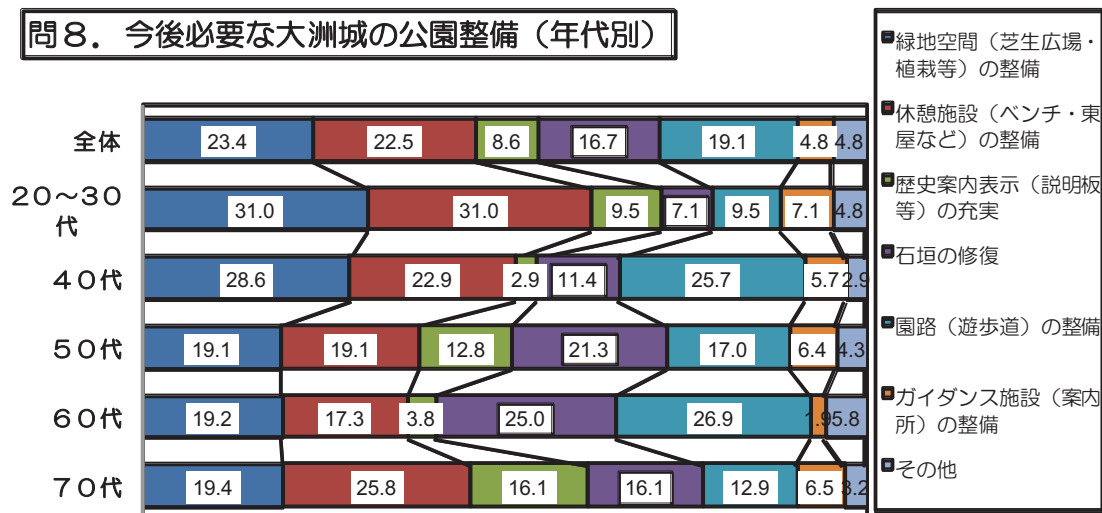
問8 今後必要な大洲城の公園整備



（年代別集計）

今後必要な大洲城の公園整備の年代別集計としては、「緑地空間（芝生広場・植栽等の整備）」の項目が20代～30代、40代の若い世代に多く挙げられている。また、50代、60代の年代の人は、他の年代に比べ、「石垣の修復」を挙げる割合が高くなっている。

問8. 今後必要な大洲城の公園整備（年代別）



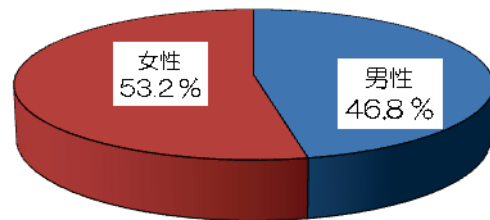
⑤ 回答者の属性

問 9. あなたの性別は？

全回収数（114 票）から、性別の回答がなかった 3 票を除き、男女の構成比をみると男性が 46.8%、女性が 53.2%であり、女性がやや多くなっているものの、概ね男女のバランスがとれた回答が得られた。

問 9. 性別	全体	
	回答数	構成比
男性	52	46.8 %
女性	59	53.2 %
有効回答 (=N)	111	100.0 %

問9. 性別 (N=111)

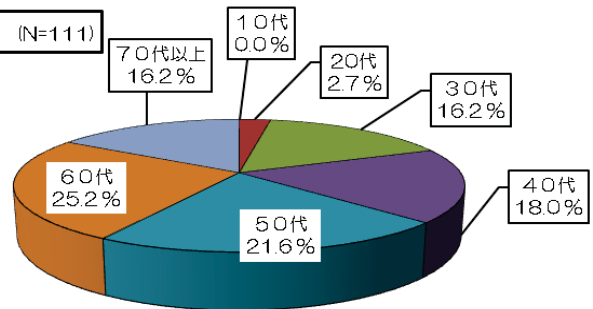


問 10. あなたの年齢は？

全回収数（114 票）から、年齢の回答がなかった 3 票を除いた年齢階層別構成比をみると、60代が 28 票（25.2%）で最も多く、10代は 0 票、20代は 3 票の回答数であった。その他の年代は、ほぼ同程度の割合になっている。

問 10. 年齢	全体	
	回答数	構成比
10代	0	0.0 %
20代	3	2.7 %
30代	18	16.2 %
40代	20	18.0 %
50代	24	21.6 %
60代	28	25.2 %
70代以上	18	16.2 %
有効回答数 (=N)	111	100.0 %

問10. 年齢 (N=111)

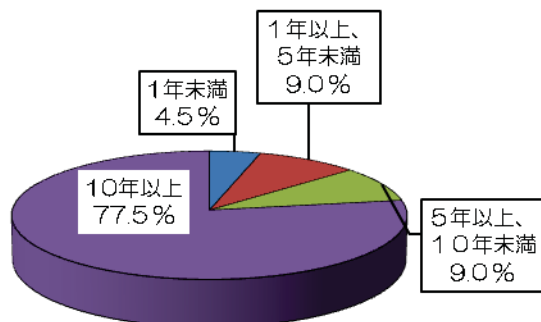


問 11. あなたが現在の場所で暮らしていらっしゃる期間はどのくらいですか？

現在の場所での居住年数は、「10年以上」が77.5%と大多数を占めている。

問 11. 居住年数	全体	
	回答数	構成比
1年未満	5	4.5%
1年以上、5年未満	10	9.0%
5年以上、10年未満	10	9.0%
10年以上	86	77.5%
有効回答数 (=N)	111	100.0%

問11. 居住年数 (N=111)



■参考文献

【書 籍】

- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 古代Ⅱ・中世』 愛媛県 昭和 59 年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 近世上』 愛媛県 昭和 61 年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 近世下』 愛媛県 昭和 62 年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 平成元年
- ・『愛媛県の民俗芸能—愛媛県民俗芸能緊急調査報告書—』 愛媛県教育委員会 平成 11 年
- ・『愛媛県近代化遺産総合調査報告書 愛媛県の近代化遺産』 愛媛県県民環境部県民交流課 平成 15 年
- ・『愛媛県の近代和風建築—近代和風建築総合調査報告書—』 愛媛県教育委員会 平成 18 年
- ・『身近な「地域のたからもの」発見—県民のための地域学入門—』 愛媛県教育委員会 平成 23 年
- ・『大洲市誌』 大洲市 平成 8 年
- ・『長浜町誌』 長浜町 昭和 50 年
- ・『長浜町誌 続編』 長浜町 平成 16 年
- ・『肱川町誌』 肱川町誌 平成 15 年
- ・『河辺村誌』 河辺村 昭和 53 年
- ・『ながはま風土記』 長浜町 平成 17 年
- ・『大洲市文化財調書集』 大洲市教育委員会 平成元年
- ・『肱川水系河川整備計画（中下流圏域）』 国土交通省四国地方整備局・愛媛県 平成 16 年
- ・『農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告書』 文化庁文化財部記念物課 平成 17 年
- ・『おはなはん通り及び周辺地区建物調査報告書』 大洲市 平成 11 年
- ・『大洲城天守閣復元工事事業報告書』 大洲市商工観光課 平成 16 年
- ・『大洲城の発掘調査 県指定史跡大洲城跡発掘調査概報』 大洲市教育委員会 平成 12 年
- ・『おおず赤煉瓦館築 100 周年記念誌 煉瓦百年物語』 大洲市 平成 14 年
- ・兵頭 正『長浜鎮座住吉神社沿革史概説』 大洲ライオンズクラブ 昭和 44 年

- ・『伊予史談会双書第7集 大洲秘録』 伊予史談会 昭和 58 年
- ・『肱川 人と暮らし』 財団法人愛媛県文化振興財団 昭和 63 年
- ・『肱川紀行』 アトラス出版 平成 11 年
- ・東 昇『大洲史談会文化叢書 1 桜井久次郎編「大洲藩・新谷藩政編年史年表」』
大洲史談会 平成 12 年

【図 録】

- ・『戦国南予風雲録 乱世を語る南予の名品』 愛媛県歴史文化博物館 平成 19 年
- ・『伊予の城めぐり—近世城郭の誕生—』 愛媛県歴史文化博物館 平成 22 年
- ・『大洲の中世領主展』 大洲市立博物館 平成 13 年
- ・『大大洲城 よみがえる大洲城』 大洲市立博物館 平成 16 年
- ・『近世大洲の夜明け～明治大正昭和のあゆみ』 大洲市立博物館 平成 18 年

【論 文】

- ・井上 淳「伊藤梅軒の伊予来訪と文化交流」（『伊予史談』第 360 号）伊予史談会 平成 23 年
- ・山内 治朋「戦国期の肱川下流域について—一須戒・横松地域を中心に—」（『愛媛県歴史文化博物館研究紀要第 14 号』）愛媛県歴史文化博物館 平成 21 年
- ・東 昇「大洲藩加藤家の家臣団形成—文政「藩臣家譜」を素材に—」（『伊予史談』327 号）平成 14 年
- ・東 昇「日本近世における産物記録と土産・名物・時献上—伊予大洲藩の伊予簾と鮎—」（『洛北史學』第 12 号）洛北史学会 平成 22 年
- ・平井 誠「明治期における廃城の変遷と地域動向—愛媛県内の城郭・陣屋を例として」（『愛媛県歴史文化博物館研究紀要第 7 号』）愛媛県歴史文化博物館 平成 14 年
- ・白石 尚寛「明治初期大洲城下町における旧武家屋敷地の変遷(上)」（『伊予史談』322 号）平成 13 年
- ・白石 尚寛「明治初期大洲城下町における旧武家屋敷地の変遷(下)」（『伊予史談』323 号）伊予史談会 平成 13 年
- ・白石 尚寛「文化・文政期における大洲藩祖社と廟所の形成について」（『伊予史談』350 号）伊予史談会 平成 20 年